

〔Ⅲ〕 次の(A)～(C)の各史料に関する問1～問15について、(ア)～(ウ)の中から最も適当な語句を選び、その記号をマークしなさい。

(A) (継体天皇)二十一年夏六月壬辰の朔甲午、近江毛野臣、衆六万を率て、任那に往きて、新羅に破られし南加羅・喙己吞を為復し興建て、任那に合せむとす。是に、筑紫(①)磐井、陰に叛逆くことを諷りて、猶預して年を経。(中略)新羅、是を知りて、密に貨賂を磐井が所に行りて、勸むらく、毛野臣の軍を防遏へよと。是に、磐井、火・豊、二つの国に掩ひ抛りて、使修職らず。(中略)

二十二年冬十一月甲寅の朔甲子、大將軍物部大連麿鹿火、親ら賊の帥磐井と、筑紫の御井郡に交戦ふ。(中略)遂に磐井を斬りて、果して疆場を定む。十二月に、筑紫君葛子、父のつみに坐りて誅せられむことを恐りて、糟屋屯倉を献りて、死罪贖はむことを求す。

(『日本書紀』)

問1 この史料は、地方豪族である磐井の反乱について述べたものであるが、文中の(①)に入る語句は何か。

(ア) 稻置 (イ) 県主 (ウ) 国造

問2 下線部②の物部大連のように、職掌を氏の名とする豪族はどれか。

(ア) 中臣氏 (イ) 蘇我氏 (ウ) 葛城氏

問3 下線部③の磐井の墓は、福岡県八女市に所在する前方後円墳と考えられている。その古墳はどれか。

(ア) 江田船山古墳 (イ) 岩戸山古墳 (ウ) 石塚山古墳

問4 下線部④の屯倉は、ヤマト政権直轄地をあらわすものであるが、この屯倉の耕作民は何と呼ばれたか。

(ア) 部曲 (イ) 田部 (ウ) 名代

- 問5 この乱の後、ヤマト政権による地方支配が強化されることになった。その方法とは、支配領域に屯倉を設置し、中央から管理者を派遣して、原初的な戸籍をつくり、戸ごとに労働力を把握するものであった。のちの時代に、わが国最初の全国的な戸籍をつくった天皇は誰か。
- (ア) 文武天皇 (イ) 天武天皇 (ウ) 天智天皇

(B) (前略) (⑤)二年十一月廿一日を以て、常陸国に^{わた}渉る。国は兼ねて警固を備へて、将門を相待つ。(中略) 仍りて彼此合戦の程に、国の軍三千人、^{かず}員の如く討ち取られたり。(中略)

^こ爰に将門、^{いただき}頂に捧げて再拜す。いはむや四の陣を挙りて立ちて歎び、数千併ら伏し拜す。(中略) 将門を^{なず}名けて新皇と曰ふ。(中略)

且つ諸国の受領を点定し、且つ王城を建つべきの^{たばかり}議を成す。その記文に云く、「王城は(⑥)国の亭南に建つべし。兼ねて櫓橋を以て、号けて京の山崎と為し、相馬郡大井津を以て、号けて京の大津とせむ」といふ。便ち左右の大臣・納言・参議・文武百官・六弁八史、皆以て点定し、内印・^げ外印鑄るべき寸法、古文・正字を^{おわ}定め了んぬ。

(『将門記』)

問6 この史料は、平将門が起こした反乱について述べたものであるが、文中の(⑤)に入る元号は何か。

- (ア) 天慶 (イ) 承平 (ウ) 天曆

問7 (⑥)に入る将門の本拠地はどれか。

- (ア) 上野 (イ) 下野 (ウ) 下総

問8 この乱は常陸掾の平貞盛らによって平定された。このとき平貞盛らに協力した下野押領使は誰か。

- (ア) 藤原秀郷 (イ) 平国香 (ウ) 源頼信

問9 この乱と同じ頃に、伊予国では藤原純友の乱が起こった。純友は大宰府を攻め落とすなどしたが、この乱を追捕使小野好古とともに平定した人物は誰か。

- (ア) 源頼光 (イ) 源経基 (ウ) 源頼義

問10 この史料は、軍記物語である『将門記』の一部であるが、次のうち同じ平安時代に書かれた軍記物語はどれか。

- (ア) 『大鏡』 (イ) 『陸奥話記』 (ウ) 『平家物語』

(c) (正長元年)九月 日、一天下の土民蜂起す。徳政と号し、酒屋・土倉・寺院等を破却せしめ、雑物等^{ほしいまま}恣^{ことごと}にこれを取り、借錢等^{ことごと}悉くこれを破る。官領^(管)これを成敗す。凡そ亡国の基^{もと}、これに過ぐべからず。日本開白^{かいびやく}以来、土民蜂起是れ初めなり。

問11 この史料は、わが国ではじめて土一揆が発生したときのようすを述べたものである。この事件の契機となった馬借の蜂起が最初に発生した国はどこか。

(ア) 山城 (イ) 近江 (ウ) 摂津

問12 下線部⑦の管領とは誰か。

(ア) 細川持之 (イ) 赤松満祐 (ウ) 畠山満家

問13 この土一揆は「代初めの徳政」を要求したものであるが、このとき青蓮院門跡から將軍への就任が決まっていた人物は誰か。

(ア) 足利義政 (イ) 足利義持 (ウ) 足利義教

問14 この一揆の翌年には、土民が守護の退去を要求して蜂起した。この土一揆が発生した国はどこか。

(ア) 播磨 (イ) 山城 (ウ) 加賀

問15 この史料は、尋尊が著した年代記の一部である。どれか。

(ア) 『薩戒記』 (イ) 『大乘院日記目録』 (ウ) 『看聞御記』